

平成29年度  
学校関係者評価報告書  
(第1回)

平成29年5月31日(水)

学校法人 九州総合学院  
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

## 平成29年度第1回「学校関係者評価委員会」報告について

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校では、平成26年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、本校のホームページ上で公表いたしております。

平成29年度につきましても、第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連する企業・医療機関・卒業生および保護者の方々に、本校の教育活動や学校運営に関して貴重なご意見・提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、より良い改善を図るため努力いたしております。評価委員の皆様には、あらためて感謝申し上げます。

今回の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界・地域・学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同、鋭意努力いたす所存でございます。

引き続き一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成29年7月

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校  
校長 熊谷 朋子

## 1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「平成28年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等11名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）及び教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

## 2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	会社（企業）名	役職名	任期	備考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	副会長兼理事	H31. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
上野 正範	南日本ソフトウェア株式会社	代表取締役	H31. 3. 31	
吉崎 昌幸	有限会社ビーライン	代表取締役	H31. 3. 31	
小森 昌章	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	副理事長	H30. 3. 31	株式会社 小森昌章 建築設計事務所 代表取締役
竹下 とみお	協業組合ドゥ・アート	代表理事	H30. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会鹿児島県連合会	会長	H31. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員
川衛 斉	株式会社スリーイン 九電工グループ ホテルアービック鹿児島	支配人	H31. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会（KMM）	顧問	H31. 3. 31	社会医療法人緑泉会 理事長室 兼 地域包括事業部 部長
馬場 俊孝	医療法人 明輝会 法人本部	人事課 人事統括	H31. 3. 31	
前平 秀康	株式会社 土佐屋	総務部長	H31. 3. 31	卒業生
中嶋 千亜紀			H31. 3. 31	保護者

### 3. 委員会次第（概要）

#### （1）開会

#### （2）学校長挨拶

校長から、本委員会の目的などについて説明を行った。

#### （3）委員紹介

各委員の紹介を行った。

#### （4）委員長選任

医療法人明輝会法人本部 馬場俊孝委員を委員長に選出し、議長とした。

#### （5）平成28年度 学校自己点検評価報告

校長より、評価の変更の項目および、今後の取り組みについて報告を行った。

#### （6）討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

#### （7）その他（次回開催予定日等）

次回委員会の開催を平成29年9月27日に教育課程編成委員会の中にて改善報告という形で、実施する。

#### （8）閉会

### 4. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

（竹下委員）

○いろいろ努力はされていると思う。すぐには出来ない部分もあると思う。

社会的活動の中のボランティアについては、社会的必要性も上がってきているので、KBCCとしても積極的に取り組んでもらいたい。

（委員長）

○今回学校側が評価をあげているが、そこまではまだない、という意見も言っていたきたい。出来ない点も、優先順位をつけて、努力していただきたい。

（小森委員）

○評価が2から3に上がった項目が5個くらいあった。やや不適切がほぼ適切になったということだが、6-6「地域貢献を目的とした公開講座」が気になっている。これをしっかりすることで、募集にも役に立つと思う。一般の人を対象に年に2~3回で良いので、学生募集に繋がるような講座を開けたら良いと思う。

（吉崎委員）

○達成必須項目でなくとも気になるのは評価が「1」のままのところ。

また、ボランティアの件が気になり、他校の事を調べたが、地方自治体と提携を結んで、ボランティア活動を行っている学校もあったので、KBCCでもどうかと思っている。

(校長)

○協定を結べるのは一条校だけとか、交通費の補助も専門学校生には出ない、など、まだ不条理な部分はあるが、私どももしっかり勉強して、学生の活動がもっとスムーズになるよう努力したい。現在、積極的にボランティア活動を行っている学生たちもおり、公欠扱いまでは行っているが単位認定までには至ってない。その辺の整備も今後していきたいと思う。

(上野委員)

○出来ることと出来ない事があるのはわかるので出来ることをやっていけばよい。当社では、物品管理にしてもISOでの品質管理で必ず指導されることとして、このパソコンはいつ購入して何に使用しているのか、パソコンの種類ごとにすべてを台帳にて管理している。鉛筆や消しゴムといったものは置いておくとしても、備品として残るもの、また消耗品（CD関係）も、どれだけ購入して、何枚使用したかについては管理している。KBCCでも管理するものを増やしていくべき。

(校長)

○主だったものについては、ナンバリングを含め管理している。消耗品については、ボールペン等まではまだ管理しきれていない部分もあるので、改善していく。

(上野委員)

○消耗品等購入する場合は、一定の部署が行って、ボールペン1本にしても、もらう場合はちゃんと許可を受けてもらうべき。勝手に持って行く等は改善すべき。

(久永委員)

○今の件で言えば、グループウェア等を使えば簡単に在庫管理が出来ると思う。ひとつの項目を改善することによって、他のいくつかの項目が良くなる。たとえば、2-16の「職場、企業等で職場実習を行っているか」というのは、インターンシップ制度のことだと思うが、実習を行うということは、企業との連携が出来る、ということ。また就職先にもなりうるし、あるいは卒業生のいる職場であれば、OB・OGとのコミュニケーションが取れる、というメリットもある。私どもの会社でも、従業員の出身校から実習生を取って就職に繋げている。実習をすることで、いろいろなことに派生していく。ホームページに載せる等の工夫によって、いろいろ繋がっていくと思う。

4-20, 21にある「卒業生の就業状況を把握、公表しているか」について、プライバシーに関する事なので公表は控えている、ということだが、他の学校はしていないのか、評価項目にあるということは、評価を上げていかないといけないが、個人情報の点から考えると公表は難しいのか。

(校長)

○在学中、内定先企業名は公表している。しかし、卒業後は会社名を出すには、会社の許可を得なければならない。ホームページやパンフレットに載せる場合、会社に対して文書でお願いをし了解を得るというプロセスになる。本社が県外の場合その作業が滞ることがままある。また、就業状況については、今も続いて頑張っている卒業生は載せられるが、辞めてしまった場合の公表の仕方等まだ整備が出来ていない。公表するには企業名とセットと考えていたので、数値で表すなど表現の仕方等工夫して、評価を上げる努力をする。

(久永委員)

○1年後の定着率を検証し、離職率を下げしていく努力をする、それが学校の評価に繋がると思う。

(委員長)

○今の話は、20番の「卒業後1年の就業状況を把握しているか」という項目が「3」に評価が上がっているのは、「ほぼ適切」ということだが、卒業生の60%位を把握しているということか

(校長)

○だいたいそういうこと。ここ何年かで言うと、ミスマッチで辞めたという学生はほぼいない、という状況になっている。ただ、精神的な問題であるとか、仕事のボリュームに関する事で辞めてしまったり、事前実習中に荷が重いとかが、自分には向かないという理由で、企業を替えたり、違う職種に移る学生が今回は3名ほどいた。今後はそこをどうしていくかということ。

(萬委員)

○どこまで統計が正しいかわからないが、社会的にはどんどん離職している。専門学校生のほうが定着率は高いと思う。一般的に離職率は本当に高くなっている。

(校長)

○離職が企業だけの責任でないとは思っているのですが、私どもとしては、就業意識を高める努力をさらにしていく。

(押井委員)

○学校評価をすることと、問題点を挙げること、どちらが大事もしくは評価されるのか。

(校長)

○改善していくことが大事。問題点を提示して、そこを良くしていくことが重要。  
課題を解決し年々向上していかなければならないし、評価「4」になったとしても気を抜かずに維持していかなければならない。

(押井委員)

○今の評価は総体的なものに感じる。最も重要と思われる課題を見つけて、そこを集中的に改善するのも大事だと思う。それと、中途退学者を減らす、資格保有者を増やす、就職率を上げる、離職率を下げる、定員の充足率を上げる、といったことが学校の評価を上げることになる。

(校長)

○この評価表は全国専門学校教育研究会で示された指針であるが、定着率や離職率の計算の仕方や公表の表現の方法はいろいろあると思う。我々も認識の仕方を突き詰めていくべきと思う。評価が「4」だったとしても、その中で精度を高めていくべきであるし、これとは別に自分たちのチェック項目を持って、日々検証し改善をしていくべき。学科別とか項目別に細かく突き詰めていかなければならない点は、深く検証するようにしている。

(川衛委員)

○各項目で点数が「1」だったり「2」だったものが、1年後に「2」「3」へ、2～3年後に「4」にする目標等あるのか、また「1」が続いているものについては、そのまま構わないのか。

(校長)

○2～3年後と言わず、すぐにでも改善したいとは思っている。「就職状況の把握」であったり、「保護者会」や「同窓会」といった組織づくりは、以前からしっかりしたものを作ろうと思っているが、なかなか報告できるほど進んでいないのが現状。計画立てて進めないといけないとは思っている。「1」のままで良いと思っている項目はひとつもない。本校だけでは対処できないことや、「2」に上げるだけでも3～4年かかるものもあるが、決してこのままで良いとは思っていない。時間がかかっても改善していきたいと思っている。

(萬委員)

○ここまでであれば合格、という評価基準はあるのか。これは自己評価だが、「第三者評価」に結びつくようなことはないのか。

(校長)

○自己点検についてご意見を頂く、この委員会がその位置づけと考えている。

(萬委員)

○病院もいろいろな評価をして「アウトカム評価」まで行っている。どんどん求められるレベルが上がっている。学校もそういうシステムになっていくのではないか。ただ学校の規模等を考えて、この項目はいらないだろうというものもある。個人的な意見としては、学校運営・学校経営の指標や目標といったものが大切だと思うし、そういうものを我々に示していただければありがたい。

(校長)

○学校経営全般については、法人の中の1校なので、提出して構わない資料等については、本部と相談したうえで提示できればと思う。

(前平委員)

○私は23年程前に卒業し、土佐屋に就職して20数年経っている。久しぶりに来ると、知っている先生がほとんどいないのが寂しいと感じる。同窓会組織のことが話に出ていたが、そちらへの協力も積極的にしていきたいと思う。また、卒業生採用に関して、ホームページ上にはあるが、担当者の氏名等がないと直接校長先生に連絡を取らねばならず、その点を改善してもらいたいと思う。卒業生(OB)向けのページがあるが、そこにもいろいろな情報があると良い。今日ガイダンス会場でKBCC生と話す機会があったが、話が盛り上がり大変良かった。

(中嶋委員)

○今日初めて参加させていただいた。長男が3年前に、長女が今年卒業し、就職した。私自身も卒業生。子供たちも会社に勤めているが、今でも先生に相談したりしてお世話になっている。今、3番目も高

校3年生だが、KBCCへの進学を考えている。

(委員長)

○それはうれしいこと。

活発なご意見を頂いた。ありがとうございます。これを参考にしながら改善してもらいたい。この議事録は皆様のご承認をいただいた後、ホームページに載せたいと思う。さまざまなご意見を頂きありがとうございました。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え、最後に次回開催予定日を、平成29年9月27日(水) 16:00 とし、閉会した。

—以 上—

記録：下島・熊谷